

春秋座

アンサンブル+シリーズ*

SHUNJYUZA
ENSEMBLE・SERIES

#

アンサンブル…

そこには様々な
コミュニケーションがあります。

弦楽アンサンブルから
他では聴くことのできない

楽器の組み合わせまで
コミュニケーションから生まれる
「音」の世界をお楽しみ下さい。



第5回公演

#

2007.1.27 [sat]

start-15:00 (open-14:30)

語りあう弦の響きー長岡京室内アンサンブルー

#

森 悠子 (ヴァイオリン)

谷本 華子 (ヴァイオリン)

増永 雄記 (ヴィオラ)

中田 美穂 (ヴィオラ)

五味 敬子 (チェロ)

長谷川 順子 (コントラバス)

石橋 敬三 (マンドリン)

京都芸術劇場「春秋座」

主催/京都造形芸術大学 構成・司会/有田 栄 企画協力/テレビマンユニオン

Design:Midori Yamamoto & Yuko Yoshimoto

春秋座 アンサンブル+シリーズ

SHUNJYUZA ENSEMBLE・SERIES

第5回公演

2007.1.27[sat] start—15:00(open—14:30)

出演

長岡京室内アンサンブルのメンバーより

森 悠子、谷本 華子 (ヴァイオリン)

増永 雄記、中田 美穂 (ヴィオラ)

五味 敬子 (チェロ)

長谷川 順子 (コントラバス)

石橋 敬三 (マンドリン)

プログラム

■F. メンデルスゾーン・・・弦楽のための交響曲 第4番ハ長調

■R. ガニュー・・・シャコンヌ (森悠子 委嘱作品)

■A. ヴィヴァルディ・・・マンドリン協奏曲 ハ長調 RV.425

■L.V. ベートーヴェン・・・弦楽五重奏曲 ハ長調 Op.29

■D. ミヨー・・・弦楽五重奏曲 第2番

* プログラムは変更になることがあります。ご了承下さい。

「語らいあう弦の響き—長岡京室内アンサンブル—」

やはり、シリーズの最後を締め括るのは「長岡京室内アンサンブル」。その緊密で洗練された技術と凝縮力の高さ、独自の様式感覚を持った高度な表現法、音楽性の豊かさ。彼らが目指した「長岡京の音色」は、今や日本でも稀有な存在として高く評価されています。

プロフィール



写真：昨年の春秋座アンサンブル・シリーズより (2006.1.21)

全席自由 一般 2,500円 学生&ユース 2,000円

※ユースとは25歳以下のこと。

※学生&ユースは学生証または年齢のわかるものをご提示ください。

※当日500円増

※就学前のお子様のご入場はご遠慮下さい。

* ご来場回数が増すごとにチケット料金が200円ずつ割り引かれる、お得な「リピート割引」があります。

* 2回目以降のご購入の際には、初回購入時にお渡しするIDカードをご提示下さい。

* 「リピート割引」は前売・予約のみに適用させていただきます。

【チケット取扱い】

□ 京都芸術劇場チケットセンター 075-791-8240 (平日 10:00~17:00)

□ 電子チケットびあ 0570-02-9999 <http://pia.jp/t/>

0570-02-9966 (Pコード 225-549)

* リピート割引は劇場チケットセンターのみでのお取扱いとなります。

【access】

■ 京都私営地下鉄 丸太町駅・北大路駅から→京都市バス 204 循環に乗車

上総町京都造形芸大前下車 (約15分)

■ JR 京都駅、京阪三条駅、阪急河原町駅から→京都市バス 5番岩倉行き乗車

■ 京阪電鉄出町柳駅から→タクシーで10分

→叡山電車に乗り換え茶山駅下車 徒歩10分

■ 駐車場はございません。



【お問い合わせ】

京都造形芸術大学
京都芸術劇場「春秋座」

〒606-8271

京都市左京区北白川瓜生山 2-116

tel. 075-791-9437

長岡京室内アンサンブル

「ドイツ各地に思想と音色の違ったオーケストラがあるように、日本においても、昔、各地に特色を持った民謡音楽があったように、かつての日本の都があった長岡京にも長岡京の思想と音色を生み出していけたら...」全国的にすべてが画一化されていくなかで、音楽こそ各地方に特色ある表現が必要であり、また、各地に埋もれた有能な若手演奏家の練習の場と活躍の場を創り出したい。このような理念を基に、1997年3月長岡京出身で現在ルーズベルト大学シカゴ音楽院教授の森悠子を中心となり、長岡京室内アンサンブルを結成。以来、年間2回の定期コンサートを開催してきた。参加メンバーには、京阪神在住者に加え、パリ、スペイン、フィンランド等世界各国で活躍中の若手演奏家も加わり、多彩な音楽交流と芸術向上の場が展開されている。このアンサンブルの演奏会では、緊密で洗練された技術と凝縮力の高さ、独自の様式感覚を持った高度な表現法、音楽性の豊かさが日本でも稀有な存在として評価されている。2000年1月、第20回(1999年度)音楽クリティッククラブ賞、01年度エクソン・モービル音楽賞を受賞。



森 悠子 (もり ゆうこ)

【構成・司会】

有田 栄 (ありた さかえ) 音楽学

東京藝術大学音楽学部楽理科、同大学院音楽研究科修士課程を経て、同博士後期課程修了。博士(音楽学)。専門は現代の音楽・音楽美学。20世紀の作曲家ルチアーノ・ベリオをはじめとする現代の「声の音楽」をテーマに研究。他方で執筆やFMラジオ音楽番組への出演などを通じ、幅広い音楽の紹介につとめている。現在昭和音楽大学助教授、および慶應義塾大学・武蔵野音楽大学非常勤講師。

